

## 待降節第3主日の説教

金 大烈 神父 2008年12月14日(日)

### 《待降節の共通のテーマ、それは希望》

おはようございます。お元気ですか？

祭壇の前にローソクが4本ありますが、火がついているのは3本ですね。今日は待降節第3の日曜日を迎えたということです。1本残っているということはクリスマスが近づいていることを意味します。

覚えていらっしゃるでしょうか？待降節第1週のテーマは何でしたか？「目覚めていなさい。」でしたね。第2週のテーマは何でしたか？「悔い改めなさい。」でした。そして今日第3週のテーマは何でしょうか？「ファリサイ派から遣わされた人々が洗礼者ヨハネに『あなたはどなたですか？メシアですか？エリヤですか？預言者ですか？』と聞くとヨハネは『私はメシアでもエリヤでも預言者でもない。私は主の道をまっすぐにせよと荒野で叫ぶ声である。』 やさしく言えば、洗礼者は自分に対して 準備する者である と説明したことになります。これが今日の福音のテーマです。「準備しなさい。」というのが第3週のテーマです。

待降節の共通のテーマは何でしょうか？第1週「目覚めていなさい。」第2週「悔い改めなさい。」第3週「準備しなさい。」 共通のテーマ、絶対忘れてはいけないこと、それは 希望 です。待降節によく使う言葉は「待ち望む」という言葉です。

希望の反対は「絶望」ですね。辞書で引くと絶望の意味は「希望は無くなる事」です。すなわち、望みを失うことです。デンマークの哲学者キェルケゴールが書いた「死に至る病」という本をよく覚えていると思います。その本には死に至る病って何だと書いているのでしょうか。それは絶望です。望むことがないと死んでしまうということです。

それでは何を望むのでしょうか？待降節に考えなければならない希望とは何でしょうか？洗礼者ヨハネは「私より後から来る方はあまりにも立派な方で私はその方の履物のひもを解く資格もない。」と言っています。「あまりにも立派な方」はどんな形でどんな姿で来られましたか？「はだかの赤ちゃんの姿」でしたね。何処で生まれましたか？

「馬小屋の飼い葉桶」でしたね。その方の最後はどうでしたか？「十字架の上」でした。自分の人生を全てあきらめて、人間的な欲も全てあきらめて叫び声になったヨハネが道を整えながら、あれ程待ち望んだその主人公の人生は人間的な目で見たら悲惨そのものでした。

ここに私たちが待降節に何を望まなくてはいけないか、そしてどのように待ち望むべきかが明らかになります。私たちが待ち望むのは裸の赤ちゃんの姿で生まれた救い主が十字架まで至る道まで見せて下さったその福音の伝言を望まなくてはならないことです。

待降節に私達は変わらないこと、絶対腐らないこと、虚しくならないことを望むように呼びかけられています。もちろんこの世は欲を持ちながら生きています。しかし手から離してはいけないこと、それは人を生かせる、癒せる希望です。そして、死まで超える希望です。そのような希望にならなくては いけません。何でもいいから待ち望むのではありません。イエス様がなぜ苦勞して死んだのか、その意味を黙想し考える時期です。絶対あきらめてはいけない望みは私達の信仰のうちにあることを忘れないで下さい。お願いします。

ありがとうございました。